

令和3年度使用中学校教科用図書
調査研究結果報告書

音楽・器楽



京築教育事務所管内教科用図書調査研究協議会

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
音楽(一般)	17	教出	中学音楽 音楽のおくりもの

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>実践に即したカリキュラム・マネジメントが展開できるように「学びのユニット」が示され、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点による学習評価がバランスよく実施できるよう学びのポイントが提示されており、実施できるように適切に工夫されている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>歌唱・器楽・創作・鑑賞の各教材は「曲想と音楽の構造との関わり」が意識され、3年間の系統性を意識した配列となっていて、生徒や学校の実態に応じて選択できるよう工夫されている。</p> <p>「知識」及び「技能」に関する内容を「思考力・判断力・表現力」の育成と関わらせて習得できるようにLet's Sing!やキャラクターによるヒントを示すなど工夫された紙面になっている。</p> <p>生徒にとって親しみやすく、指導のねらいに適切なものとなるように配慮されている。</p>
	3 分量	<p>生徒や各学校の実態に応じて、さまざまな教材選択が可能となるように編集している。</p>
	4 使用上の便宜	<p>2,3年下には「日本と西洋の音楽の歩み」を掲載し、我が国や郷土の伝統音楽の理解を基盤にすることを踏まえた誌面構成を工夫している。また、この音楽史の時代区分は、全ての鑑賞教材のページ右側に関連させて示し(音楽史ナビ)、学習効果を高める工夫がなされている。また、「肖像で見る音楽年表」を示し、視覚的に理解しやすいように配慮されている。</p> <p>「まなびリンク」は、見る、聴く、記録する、で構成され、アクティブの紙面と、教材の準備が難しいと考えられる場面で使用できるように手厚く準備されている。また、音楽的な見方・考え方を働かせながら曲想の変化との関わりについての学習が展開できるよう工夫されている。</p>
	5 印刷・製本等	<p>判型はAB変型を採用し、学びに集中できるレイアウトや配色(カラーユニバーサルデザイン)、見やすく読みやすい文字(ユニバーサルデザインフォント)など、細部にわたり配慮がなされている。また、学びのポイントや音楽史ナビ、折込みとなっている楽典のページなどの工夫が見られる。</p>
科ごとの選定の観点	<ol style="list-style-type: none"> 1 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる内容になっている。 2 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけることができる内容になっている。 3 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く事ができる内容になっている。 4 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容になっている。 	

	<p>5 [共通事項] を要として各領域や分野の関連を図ることができる内容になっている。</p> <p>6 音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感することができる内容になっている。</p> <p>7 表現及び鑑賞の各活動において、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けることができる内容になっている。</p> <p>8 歌唱及び器楽の活動において、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるような内容になっている。</p> <p>9 創作の活動において、理論に偏ることなく、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験ができる内容になっている。</p> <p>10 鑑賞の活動において、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切な教材（楽曲）を選択することができる内容になっている。</p>
--	---

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
音楽(一般)	27	教芸	中学生の音楽

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	教科及び各学年の目標と内容を踏まえて精選された教材によって、必要な範囲の内容が十分に、かつ無理なく取り扱えるよう構成されており、音楽科の目標を達成するという観点から適切なものとなっている。また、[共通事項]に示された音楽を形づくっている要素が、各教材の学習目標の下に示されており、生徒が意欲をもって主体的に学習を進められるよう、学習に必要な情報を明確に示すなど、適切に工夫されている。
	2 内容に関する配慮事項	歌唱教材においては、歌詞あるいは楽曲の内容が生徒の心情的な発達段階に添ったものであり、かつ合唱の編成や各パートの音域についても学年に応じて適切に配慮されている。また、鑑賞教材の取り上げ方も学年の実態に合わせて適切に配慮されている。 学習のねらいは生徒に分かりやすく示されており、音楽と豊かに関わりながら、学校での学びと自らの生活を繋ぐことができるよう配慮されている。
	3 分量	巻末の充実した楽典事項や「音楽を形づくっている要素」のページにより、基礎的・基本的な学力の定着、反復学習ができるように配慮されている。 文章は生徒に分かりやすく丁寧かつ簡潔で文章量も適切なものとなっており、各教材の学習内容が明確に示されるとともに、それに即した活動の具体的な手立てやヒントなどが分かりやすく適切に取り上げられるなど、目的に応じた扱い方の工夫がなされている分量である。
	4 使用上の便宜	思考した内容を記述する場面を設定したり、作品例やワークシートを掲載したりするなど、手順が分かりやすく、適切なものとなっている。
	5 印刷・製本等	全体に区別しやすい配色を用いながら、学習上必要な情報に確実に注目することができるよう、形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるよう配慮されている。
教科ごとの選定の観点	<ol style="list-style-type: none"> 1 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる内容になっている。 2 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけることができる内容になっている。 3 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く事ができる内容になっている。 4 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容になっている。 5 [共通事項]を要として各領域や分野の関連を図ることができる内容になっている。 6 音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、音や音楽が生活に果たす 	

	<p>役割を考えさせるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感することができる内容になっている。</p> <p>7 表現及び鑑賞の各活動において、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けることができる内容になっている。</p> <p>8 歌唱及び器楽の活動において、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるような内容になっている。</p> <p>9 創作の活動において、理論に偏ることなく、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験ができる内容になっている。</p> <p>10 鑑賞の活動において、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切な教材（楽曲）を選択することができる内容になっている。</p>
--	--

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
音楽(器楽)	17	教出	中学器楽 音楽のおくりもの

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	教科書前半は楽器の基礎的な知識や奏法をまとめられており、後半はアンサンブルを中心とした、習得した知識・技能を活用できるように設定されている。また、我が国や郷土の伝統音楽、歌唱共通教材も含め、さまざまな音楽のジャンルから選択できるように配慮、工夫されている。
	2 内容に関する配慮事項	各楽器の基礎的な奏法の説明に加え、学校の実態に応じて使用できる編曲・構成が配慮されている。また、創作活動と結び付けられるように工夫されている。 和楽器については、箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八を扱い、箏や三味線の読譜には、五線譜と合わせて縦譜が掲載されている。歌唱共通教材の中から、「荒城の月」を箏で取り組めるよう配慮されている。 生徒にとって親しみやすく、指導のねらいに適切なものとなるように配慮されている。
	3 分量	生徒や各学校の実態に応じて、さまざまな教材選択が可能となるように編集している。
	4 使用上の便宜	「何が同じで、何が違う？」のページでは、我が国や諸外国の音楽文化の理解を意図した教材を提示し、楽器の音の出る仕組みや表現する旋律の特徴などに着目し、主体的・対話的で深い学びが展開できるよう工夫された紙面の構成となっている。
	5 印刷・製本等	判型はAB変型を採用し、学びに集中できるレイアウトや配色(カラーユニバーサルデザイン)、見やすく読みやすい文字(ユニバーサルデザインフォント)など、細部にわたり配慮がなされている。また、学びのねらいやポイント、折り込みとなっている「ギター&キーボード コード表」「リコーダーの運指表」などの学習をサポートする工夫が見られる。
教科ごとの選定の観点	<ol style="list-style-type: none"> 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わることができる内容になっている。 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけることができる内容になっている。 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く事ができる内容になっている。 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容になっている。 〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図ることができる内容になっている。 	

	<p>6 音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感することができる内容になっている。</p> <p>7 表現及び鑑賞の各活動において、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けることができる内容になっている。</p> <p>8 歌唱及び器楽の活動において、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるような内容になっている。</p> <p>9 創作の活動において、理論に偏ることなく、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験ができる内容になっている。</p> <p>10 鑑賞の活動において、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切な教材（楽曲）を選択することができる内容になっている。</p>
--	--

教科書種目	発行者		教科書名(シリーズ)
	番号	略称	
音楽(器楽)	27	教芸	中学生の器楽

項目		項目毎の調査研究結果
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	教科及び各学年の目標と内容を踏まえて精選された教材によって、必要な範囲の内容が十分に、かつ無理なく取り扱えるよう構成されており、音楽科の目標を達成するという観点から適切なものとなっている。
	2 内容に関する配慮事項	各楽器のページにおいては、生徒の実態に合わせて基礎的な技能を習得できるよう、きめ細かな配慮がなされている。 和楽器のページにおいては、楽器の奏法に関することだけでなく、姿勢や礼儀などについてのコラムも掲載され、適切に配慮されている。また、導入として各楽器を用いた鑑賞用も取り上げられており、我が国の伝統的な音楽文化の理解という観点から適切なものとなっている。
	3 分量	文章は生徒に分かりやすく丁寧かつ簡潔で文章量も適切なものとなっており、各教材の学習内容が明確に示されるとともに、それに即した活動の具体的な手立てやヒントなどが分かりやすく適切に取り上げられるなど、目的に応じた扱い方の工夫がなされている分量である。
	4 使用上の便宜	「知識・技能」に関するコラムや「Q&A」、キャラクターの吹き出しなどでヒントが示されているほか、専門家からのメッセージにより自分の考えをより広げたり深めたりすることができるよう配慮されている。
	5 印刷・製本等	全体に区別しやすい配色を用いながら、学習上必要な情報に確実に注目することができるよう、形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるように配慮されている。
教科ごとの選定の観点	<ol style="list-style-type: none"> 1 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる内容となっている。 2 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけることができる内容となっている。 3 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く事ができる内容となっている。 4 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容となっている。 5 [共通事項]を要として各領域や分野の関連を図ることができる内容となっている。 6 音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感することができる内容となっている。 7 表現及び鑑賞の各活動において、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けることができる内容となっている。 	

	<p>8 歌唱及び器楽の活動において、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるような内容になっている。</p> <p>9 創作の活動において、理論に偏ることなく、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験ができる内容になっている。</p> <p>10 鑑賞の活動において、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切な教材（楽曲）を選択することができる内容になっている。</p>
--	--